

冤罪撲滅 歌の輪で

小室等さんら30人参加

フォーク歌手の小室等さん(74)の呼びかけで、冤罪に苦しむ人たちを歌で応援する「冤罪音楽プロジェクト インセンス」が始まった。詩人の谷川俊太郎さん(85)が作詞し、小室さんが作曲したオリジナル曲を約30人のミュージシャンが歌いつなぐ。販売予定のCDの収益は、冤罪被害者を助ける活動に使われる。

【荒木涼子、写真も】

制作へネット寄付募集



収録に向けて打ち合わせする小室等さん(左)と谷川賢作さん—東京都中野区のスタジオで4日

インセンスは英語で「潔白」の意味。小室さんは、冤罪をテーマに撮り続けている映画監督の金聖雄さん(54)に4年前から音楽面で協力してきた。その過程で、「証拠がもろいのに有罪にされてしまうのはおかしい」との思いが募り、プロジェクトを始めた。

曲名は「真実・事実・現実 あることないこと」。「ほんとうをうそにするのはコトバ

うそをほんとうにするのもコトバ」という歌詞で始まり、冤罪の理不尽さを訴えながら最後は「うそのすがおはやみのなか」と全員で合唱で締めくくられる。

歌は、1985年に発売され、世界的なヒットとなった「ウィー・アー・ザ・ワールド」を手本に、大勢の歌い手がフレーズを分担して歌いつ

ないでいく形式。賛同したサックス奏者の坂田明さんや民謡歌手の伊藤多喜雄さん、ロックバンド「子供ばんど」のボーカルのうじきつよしさんらが参加し、担当部分の収録を進めている。小室さんは「言葉にできないような感情まで伝えたい」と意気込む。谷川俊太郎さんの長男で総監督を務める谷川賢作さん(57)は「連なる声がアーティストたちの共鳴を生み、想像以上の作品となった」と話した。

オリジナル曲は月内に収録を終え、CD化のために寄付を募るクラウドファンディングを始める。来年2月には完成記念ライブを開くほか、曲は「袴田事件」の袴田蔵さん(81)ら冤罪を訴えてきた人たちを描いた金監督の新作「獄友」の主題歌にもなる。金監督は「この歌が多くの人に共有されることで、冤罪撲滅の運動が広がってほしい」と話している。